

## 地域や学校の施設を活用した体験活動

### 山口県立奈古高等学校

#### 学校の概要

##### ① 学校規模

- 学級数：6学級
- 生徒数：170人
- 教職員数：41人
- 活動の対象学年：1年生・51人

##### ② 体験活動の観点などからみた学校環境

- 本校は近くに風光明媚な日本海と緑豊かな山々に囲まれている。産業は農業と水産業が中心の町である。
- 地域の学校として、清ヶ浜の鳴き砂復活を目指した清掃活動や、学校祭と町のふるさと祭りを同時開催するなど、地域と連携した活動を行っている。
- 過疎化・高齢化が進んでおり、福祉への関心が高まっている。近くにそのような施設がある。
- 近くには伝統産業である萩焼づくりが行われている。
- 本校には萩の松下村塾を模した「維新館」が卒業生によって建てられている。

##### ③ 連絡先

- 〒759-3622  
阿武郡阿武町奈古柳橋2968-1
- 電話：08388-2-2333
- FAX：08388-2-2123
- ホームページ：  
<http://www.nago-h.ysn21.jp/kyouiku/>  
<http://www.nago-h.ysn21.jp/keitai/>
- 電子メール  
nago-h.@ysn21.jp

#### 体験活動の概要

##### ① 活動のねらい

- 農業と家庭の専門高校であるが、生徒は入学までに農業・家庭に関する活動を体験していないのが実情である。
- 学校の近くにある海や福祉施設、学校農場を活用することにより豊かな自然体験や命の尊さ、勤労の重要性などを学ぶ。
- クラス単位で活動を一緒にすることにより仲間意識の醸成や人への思いやりを学び、よりよい人間関係づくりを図る。
- 地域の一員としての自覚を促す体験活動を通し、社会性や公共心を育成する。

##### ② 活動内容と教育課程上の位置付け

- 自然に関わる活動
  - ・ 鳴き砂海岸の清掃
  - ・ 海資源の探求  
(特別活動 14時間)
- 勤労生産に関わる活動
  - ・ 田植え ・ 稲刈り  
(農業科学基礎・生活産業基礎 5時間)
- ボランティアに関わる活動
  - ・ 通学駅舎の清掃、花壇の手入れ
  - ・ 老人福祉施設の訪問
  - ・ しめ縄づくり
  - ・ 餅つきと年賀状  
(特別活動・農業科学基礎・生活産業基礎 12時間)
- 文化や芸術に関する活動
  - ・ 萩焼の作陶 ・ お茶の作法  
(特別活動・農業科学基礎・生活産業基礎 7時間)
- その他
  - ・ 体験活動発表会 (特別活動 1時間)

## 1 活動に関する学校の全体計画

### (1) 活動のねらい

海や山に囲まれた自然環境豊かな地域の特性を生かすとともに、地域の人材や施設を活用して心豊かな体験活動を推進する。また地域の一員としての自覚を促す活動を行う。

### (2) 全体の指導計画

#### ① 年間活動計画

活動日時・時間	活動の名称と内容	教育課程上の位置付け	活動場所	指導者
4月24日 1日間	【鳴き砂海岸の清掃】 ・鳴き砂について学ぶ ・清掃活動	特別活動(全校生徒) 農業科学基礎 家庭総合	阿武町木与	町職員 地元関係者 本校職員
6月6日 3時間	【田植え】	農業科学基礎 生活産業基礎	本校水田	本校職員
6月13日 1日間	【海資源の探求】 ・魚介類の増殖 ・海洋資源保護の体験	特別活動 家庭総合	阿武町奈古	水産試験場の職員 本校職員
7月11日 4時間	【老人福祉施設の訪問】 ・お年寄りとの交流 ・施設見学と車いす体験	特別活動 生活産業基礎	阿武町・萩市の老人福祉施設	施設職員 本校職員
7月17日 2時間	【通学駅舎の環境美化】 ・駅舎の清掃活動 ・花壇の手入れ	特別活動(全校生徒)	阿武町内駅舎(3駅)	本校職員
9月28日 10月3日 3時間	【萩焼の作陶】 ・萩焼の歴史と作陶 ・抹茶茶碗づくり	特別活動 家庭総合	本校	萩青年の家の職員
10月11日 2時間	【稲刈り】 ・鎌による手刈り	農業科学基礎 生活産業基礎	本校農場	本校職員
11月22日 4時間	【お茶の作法】 ・自作茶碗を使用して	特別活動	本校維新館	茶道教授 本校職員
11月30日 2時間	【ワラの活用】 ・しめ縄づくり	農業科学基礎	本校農場	本校職員
12月19日 4時間	【餅つき】 ・餅つきと年賀状作成 ・施設訪問	農業科学基礎 生活産業基礎	本校	本校職員
1月30日 1時間	【体験活動発表会】 ・個人発表	特別活動	本校	学校支援委員 本校職員

## 2 活動の実際

### (1) 事前指導

各活動の目的や内容・方法について十分指導した後、体験活動を実施した。生徒が主体的に活動できるとともに、道具等の安全な使用については特に配慮した。

## (2) 活動の展開

### ① 自然に関わる活動・・・(特別活動 14時間)

#### ○ 町内の鳴き砂海岸の清掃

町内の「鳴き砂海岸の復活」を目指して、町と協力しながら全校生徒で参加している。自然を大切にすることを育てるとともに、集団活動を通じて生徒間の親睦を深める。

#### ○ 町内の海資源の探求

日本海に面している町内の恵まれた海の環境の中で育苗されている魚介類の栽培方法を研修することにより、海の環境保全や生命を大切にすることを養う。

### ② 勤労生産に関わる活動・・・(農業科学基礎、生活産業基礎 5時間)

#### ○ 田植え体験

教科、農業科学基礎の「イネ」の学習内容を深めるために、手植えによる実習をする。生産活動の苦労や素足で土に直接触れることにより、水田の土の特殊性を理解する。



《田植え》

#### ○ 稲刈り体験

教科の中で「イネ」の学習内容を深めるために、手刈りや機械による実習をする。収穫を実際に行うことにより、勤労の尊さ、食物に感謝する心を育成する。

### ③ ボランティアに関する活動・・・(特別活動、農業科学基礎、生活産業基礎 13時間)

#### ○ 通学駅舎の清掃・花壇の手入れ

平素利用している駅舎の清掃を行うことにより、公共施設を大切にすることを養う。

#### ○ 老人福祉施設の訪問

高齢者の福祉施設を見学し、どのような生活をされているかを理解するとともに、高齢者とのふれあい活動を通し、高齢者との接し方や会話の方法を学ぶ。



《福祉施設研修》

#### ○ しめ縄づくり

イネの副産物の「ワラ」を活用し、「縄の作り方」、日本の伝統行事である「締め飾り」を作る方法を学ぶ。

#### ○ 餅つきと年賀状

杵でつく勤労体験を行い、近くの施設に手作りの餅を贈呈する。正月を迎える福祉施設の方に来年もよい年であるように、生徒手づくりの年賀状も添える。

### ④ 文化や芸術に関する活動

#### ○ 萩焼の抹茶茶碗・・・(特別活動 5時間)

地元の伝統的な萩焼の作陶方法を専門家に学ぶ。

#### ○ お茶の作法

本校の「維新館」において作陶した抹茶茶碗を使って、お茶の専門家による作法を学び、日本の茶文化を味わう。



《本校維新館でのお茶会》

### ⑤ 体験活動発表会

○ 1年間の様々な活動の中から最も印象に残った活動について個人発表をする。

## (3) 事後指導

毎回アンケート調査を行った。また学校支援委員会ではアンケートをもとによりよい

事業の展開のために意見をもらった。

### 3 体験活動の実施体制

#### (1) 学校支援委員会

##### ① 学校の体制

教頭を窓口とし、年度当初に1学年主任や正副担任を中心に計画の作成や実施方法について協議した。また、教務部、農場部とも連携して運営を進めている。

##### ② 学校支援委員会

委員：外部委員・・・阿武町教育委員会、県外海第2栽培漁業センター、町内漁業自営者  
校内委員・・・校長、教頭、教務主任、第1学年主任、1年正副担任（7名）

#### (2) 配慮事項等

- 体験活動をできるだけ教科と関連づけ、学習内容が深化できるように工夫する。
- 福祉施設での活動では個人情報に配慮するとともに、事前協議を十分にする。
- 農場や校外へ出向いての活動では事前指導を行い、ケガや交通安全に配慮する。

### 4 体験活動の評価の工夫と指導の改善

- (1) 体験活動について教員の気付きや生徒のアンケートをまとめた。生徒の体験活動の実態を把握し、今後の体験活動や専門教育を進める上での参考に役立てる。
- (2) 教科に関連する内容については教科内で評価し、学習意欲の喚起を図る。
- (3) 活動終了後には生徒に体験活動を総括させるとともに、生徒の体験発表の機会を設ける。

### 5 活動の成果と課題

#### (1) クラス間での人間関係づくり

入学後間もない生徒が共通の目的で活動をすることは人間関係づくりに果たす役割は大きい。体験活動でお互いに汗を流し、美しい自然に触れることは生徒同士のコミュニケーションの機会にもなり意義深いものがある。

#### (2) 地域資源の再発見と環境教育の推進

ふるさとのよさを再発見できたことは、地域を大切にする心や自然環境を大切にする心の育成など公共心の育成に大切である。



#### (3) 進路意識の向上と社会性の育成

《外界第2栽培漁業センター》

農業や福祉施設での体験活動は、勤労の大切さと進路に対する意識の向上になる。校外活動に参加することは、社会の仕組みを直に見ることになり、社会性の育成になる。

#### (4) アンケート結果から①自己のよさを見つめ、個性を伸ばしていく、②感謝と思いやりの心、③生命を尊重することなど、この事業の所期の目的が十分に達成されている。

#### (5) 今後の課題

生徒達が主体的に体験を行う場や機会の設定、何を生徒に身に付けさせたいか、その評価を適切に行うなど、教科と関連しながら工夫改善をしていくことが必要である。

また、地域の一員として学校での学習成果を地域に還元する（幼・小・中）など、生徒の感性や考えを広く発信していけるように取り組んでいきたい。